

リンロン®テープ 巻き方 その1

リンロン®テープを剥皮害防護用として利用する場合、どのような巻き方をすれば効果が高くなるのかという問い合わせがよくある。

現時点では、巻きやすい方法や効果が出そうな巻き方を各地で試みておりその途中経過をここに紹介する。

テープの止め方

巻き始めと終わりのテープ処理は結び止める方法と押え止める方法がある。結び止める場合は、主にテープがズレ落ちないことに注意を払う場合が多く、押え止める場合は樹幹が肥大生長するのを妨げないことを主に目的としている。

結び止める場合でも、巻き始め、終わりの両方を結び止めるのではなく、片方だけ結び止めることで、肥大生長を妨げない工夫もしている。

また、押え止める場合でもテープがズレ落ちないために樹皮に絡み付いたり引っ掛けたりしてズレを防ぐ。



↑ 押え止め 結び止め →

* 押え止めの場合、樹幹巻きが多い(樹高 1.5m付近から約 10cm~15cm間隔で巻く)巻き方に適し、結び止めの場合は、樹幹巻きが比較的少ない(樹高 1m付近から地際に巻く)場合に適していると言えそうだ。



巻き方による効果の度合いについては、今後長期間(完全分解するまで)の観察による各地の報告を集約しレポートする事とする。